

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467300065
法人名	社会福祉法人 内之浦会
事業所名	グループホーム銀河の里
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町北方576番地 (電話) 0994-31-6624
自己評価作成日	H27年1月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設は海や山・田畑など自然に囲まれており、木材や畳を使用した温かみのある建物となっています。住み慣れた地域で気持ちよく、安心した生活を送っている様、1人1人のペースに合わせながら利用者本位のケアに取り組んでいます。

・天気の良い日にはウッドデッキや中庭を利用しお茶を飲んだり、農業経験者も多い事もあり、畑で野菜を作り、利用者と共に収穫、調理を行う等、楽しく穏やかな生活が送れる様、支援しています。

・年に数回、外食や遠足、温泉に行ったり、地域の夏祭りやマラソン大会に出場する等外出支援も随時行っています。

・同敷地内に同一法人の特別養護老人ホームやクリニックが隣接しており、敬老会やクリスマス会等は合同で行う等、日頃から交流・情報交換を行いながら、利用者様の状況に応じたケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

肝付町郊外の閑静な地に立地し、母体である特別養護老人ホーム、医療機関、通所介護事業所等も併設されて利用者が最後まで安心して穏やかに暮らし続けることができるように法人間で連携が図られているグループホームである。

活発な利用者が多く、毎年肝付町で行われている梅マラソンにも数名の出場があり、家族・職員も共に走ったり、応援に駆けつけるなど盛り上がっている。他にも近隣の温泉施設に出かけたり、外食に出かけたりと外出の機会を頻回に設けて車椅子であっても全員が外出できるように職員体制や移動等を工夫して利用者が快適で楽しくホームでの生活を送れるように支援している。

排泄の自立に向けた支援にも力を入れており、職員のコまめな声かけや誘導で入居後に改善された利用者が多く、身体状況に問題がない限りほとんどの利用者が普通の下着で過ごしており、家族の負担軽減と本人の生活レベルの向上に結びついている。

利用者の表情が明るく、ホーム内に活気があり、利用者同士の会話や笑い声も聞かれ職員に見守られながら安全で自由に楽しく生活している様子が伺われる。家族から「安心してます」「とても楽しく過ごしています」との評価もあり家族との信頼関係も築かれている。

管理者・職員は利用者にとって楽しく居心地のいいホームを目指して利用者主体のケアに努め、趣向を凝らした様々な取り組みが行なわれているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は見える所に掲示している。1人1人を尊重し真心を込めたケアの提供が出来る様、日々観察を行い、その時々状態に合わせた柔軟な対応を心掛けている。	理念は各ユニット入口に掲示し、地域密着型サービス事業所として地域に密着したより良いサービスができるように実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	マラソン大会や夏祭り等、地域の行事に参加したり、買い出しの際は一緒に行く等、地域に出向き交流の機会を作る様努めている。	地域交流が困難な立地環境ではあるが、夏祭りや文化祭見学、肝付町で行われる梅マラソンには毎年利用者が参加するなど積極的に出かけて地域交流に努めている。また、日常の買い物にも同行してもらい地域の方々との交流の機会を作っている。小中学校の体験学習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	入所者家族であっても、認知症への理解が出来ていない事も多い為、毎月便りにて近況や対応法を伝える様になっている。出来ない事ばかりでなく、少しの支援でまだ出来る事があるという事もお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。利用者の入退去状況や退去になった理由、行事報告などを行っている。事故やヒヤリハットの報告も行い、同様の内容での他施設での対応を聞き、今後の対策へ活かす事もある。	運営推進会議は2カ月に1回、地域代表・家族代表・行政等の出席を得て定期的に開催している。利用者の状況及び活動報告、ヒヤリハット報告等を行って参加者からの意見や助言をもらい運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に出席して頂き、利用者の状況や入退去状況、事故報告を行っている。その際、助言を頂いたり他施設での対応法を聞くなど協力関係作りに努めている。	運営推進会議に毎回出席してもらってホームの実情や取り組みを伝えている。また、生保受給者もおり担当者との連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会があり、理解を深めている。 夜間は玄関の施錠をしているが、ホール入口にドアベルを設置して居る為、日中は施錠せず対応している。	契約書に「緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限しません」と明記されている。身体拘束廃止マニュアルを作成し、法人全体の定期的な勉強会で職員の共通認識を図り、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は出入り口は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設勉強会にて理解を深めている。 日頃から声掛け・対応には配慮し、ミーティング時に日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会やケアマネ研修で学ぶ機会がある。 現在、日常生活自立支援事業を利用している方が1名おり、金銭管理をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は家族が近隣にいる場合は、入所前に来里して頂き、契約に関する説明を行っている。遠方の方へは事前に必要書類を送り、目を通して貰う様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加行事や面会に来られた際、入所者の近況報告を行ったうえで、家族の要望を聞くようにしている。利用者へは随時要望を聞き、対応可能な件に関しては対応する様になっている。	日常の面会時や電話連絡時、担当者会議、年2回の家族交流会等で家族から意見、要望を聞き出すようにしている。出された意見・要望については職員間で検討して改善やサービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は必ず各棟・合同ミーティングを実施しており、利用者への対応だけでなく、環境整備やその他業務で改善すべき所がないか検討する機会を設けている。	毎朝の合同申し送り、夕方の各棟申し送り、毎月の全職員参加の各棟及び合同ミーティングで意見交換や話し合いを行っている。職員から出された、意見・提案等は業務やサービスの質の向上に反映させている。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の支援や研修への参加、資格取得に伴う昇給があり、意欲的に取り組める環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月特養と合同での勉強会に参加したり、ミーティングにて入所者の対応法を検討したり助言を出し合っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修の際に同業者との交流を行っており、その際に他施設での活動情報や支援方法を聞いたり助言を貰う等、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に本人や家族、事業者と連絡を取り、現状や本人の要望・不安の把握に努め、ケアの方法の検討や環境整備等を行い、安心して施設生活が送れる様取り組んでいる。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始時には必ずご家族の要望や困っている事が無いか確認している。ご家族が言葉として出さなくても不安に思っていると思われる件に関しては働きかけをする様に心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス開始時は本人・家族の要望を聞き、出来る限り要望に応えられる様にしている。 しかし、現状とかけ離れた要望が聞かれた時には現状の理解をして頂けるような声掛けを行う様にしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>時間が掛かるからとすぐに介助するのではなく、コミュニケーションを交えながら本人のペースで、時間が掛かっても出来る事は出来る限り自分で実施して行き、機能低下をきたさない様、見守り・声掛けしながら対応するよう心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後は家族の面会や関わりが減少しているのが現状である。便りにて面会を促したり、外出をお願いしている。又、面会後の本人の表情の変化等も伝える様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会は中々得られず、随時面会のお願いをしている。特養に知人が入所している場合は面会に行ったり地域の行事に参加する事で馴染みの人と会える機会になる事もある。家族が遠方の方へは随時写真や利用者本人に手紙を書いて貰う等して交流が出来る様にしている。	日常の買い物同行、地域行事参加や見学、墓参りや一時帰宅など行って馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。また、家族や友人・知人が訪ねやすいように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士良く話をされており、笑顔が多く見られている。又、自らあまり話をされない利用者へも他入所者が声を掛ける等する姿がみられている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから退所となった場合でも、退所先と随時情報交換を行う様にしている。又、同法人の特養へ入所した際は、入所者と面会に行く事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への聞き取りや日常生活の中での何気ない会話や表情、活動状況の中から、本人の希望・意向の把握に努めている。	会話の中から思いや意向を把握し困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。利用者の訴えや思いなど得られた情報は申し送りや申し送りノートに記録して職員間で情報を共有し支援に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際には本人や家族、りようしている事業所のスタッフへ生活歴やこれまでの経過の聞き取りを行い、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月1回のミーティングの際に、利用者1人1人に対してのケアの内容、現在の状態について話し合いを行い、情報を共有したり随時ケアの見直しを行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは関わる職員全員で実施している。介護計画は本人・家族の要望に合わせ、尚且つ自立支援（残存機能を活用）にも取り組める内容になるように心掛けている。	本人・家族の意向をくみとった上で担当者を中心にスタッフ間で協議し利用者本位の介護計画を作成している。日常生活で変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても3カ月ごとにモニタリングを実施し見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録を行っている。 その時々に応じて対応法が変更になった時には申し送りノートを活用し情報を共有し、統一したケアの提供が出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何か変化があった時は毎月のミーティングや朝のミーティング時等で話し合い、1人1人の状態、その時々合わせたケアの提供が出来る様心掛けています。		
29		○地域資源との協働 ハピネス春の里が元々持っている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり町内の施設を利用しながら楽しい施設生活が送れる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所と同時に隣接している吉重クリニックがかかりつけ医となるが、必要に応じて入所前からのかかりつけ医への受診や緊急時には紹介にて病院受診をする事もある。	入居時に隣接する協力医療機関の説明を行い同意を得て変更する利用者もいるが、これまでのかかりつけ医を継続している利用者もおり、本人・家族の希望のかかりつけ医となっている。通院は基本は家族であるが、状況に応じてホーム職員でも受診同行を行っている。また、緊急時の搬送先についても説明を行い、同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックへは申し送りノートにて状態報告を行っている。又、2週間に1回は訪問診療がある為、その際に日頃の状態報告をし、必要時は指示を受けている。 急変時にはピッチを利用し、速やかな対応が出来る様、心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを準備しADL等だけでなく、日頃の過ごし方や注意点、その方の特徴等まで情報提供もする様にしている。 入院中は出来る限り様子伺いに行き、状態の確認や情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人に特養がある事から、GHでの看取りは行っていない。 又、重度化しGHでの対応が困難になった場合は特養への入所がスムーズに出来る様、随時特養相談員とも連携を図っており、その旨については入所時に家族へ説明し承諾を得ている。	重度化や終末期に向けたホームの方針は入居時に説明している。入居後は主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。医療行為が必要となった場合はホームでの対応が困難であり、早い時期から家族に十分に説明して法人間で連携を図って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の訓練は実施していない。 事故発生時はミーティングを行い、事故時の対応・発生原因・今後の対応策の検討を行い、再発予防に務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、昼夜想定防災訓練を消防立会いの下実施し、通報訓練や消火器訓練もその都度実施している。</p>	<p>年2回消防署の指導のもと、防火訓練・避難訓練を行っている。隣接する施設とは協力関係が話し合われており、スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の状態やその時の状況に合わせた声掛けを行う様、日頃から職員同士声を掛け合っている。 入浴時は必ず1人ずつ他者と被る事なく行い、プライバシーの保護に努めている。	人生の先輩として尊厳の気持ちを持ちながら個々に応じた声かけやプライドを損なわないように個人を尊重した対応に努めている。難聴の利用者も多いが遠くから大声で話すのではなく近くに行き優しい口調で話すように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間や食事時等、ゆっくりと過ごす中で、コミュニケーション・スキンシップを図りながら、本人の希望や思いを伝えられる時間を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクの時間は決まっている。その他は特に決まりはないが、皆さんホールに集まりテレビ鑑賞したり談笑され過ごされている。 散歩や外出の希望がある際は、出来る限り希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服は基本的にご本人の着たいものを着ているが、季節に合った服を選べない方が多い為、職員と一緒に衣類準備をしている。 行事や外出の際は、お化粧する事もあり、普段より活気みられる状態である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	4ヶ月に1回、嗜好調査を行い、そこで出たメニューを普段のメニューに取り入れたり、誕生日には誕生日者の食べたいメニューを提供している。 野菜の皮むきや食器洗いも随時、職員・利用者一緒に行っている。	個々の力量に応じて菜園作りや買い物、調理手伝いなど出来ることは職員と共に行っている。外食にも出かけており利用者の楽しみとなっている。気候のいい時期は庭でお茶を飲んだり、家族交流会で食事会を行うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体重や病歴に合わせ食事量の調整を行い、食事状態や本人の要望に応じて食事形態の変更も行っている。 中々水分を摂らない方へは、ジュースやゼリー等での水分摂取を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お茶前・毎食前のお茶での嗽を実施したり、毎食後口腔ケアを行っている。一部介助や見守り・声掛け等、個人の状態に合わせた対応を行い、出来る限り本人の行動を促している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所の際おむつを使用していたら、必ずおむつ使用が適切かどうか見直しを行っている。 トイレに行かれる方へは、定期的に声掛け・誘導を実施し、失禁の予防に努めており、日中の失禁者は減少している。	排泄チェック表を作成して個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。職員のさりげない声かけやこまめな誘導で入居後に改善された利用者が多く、ホームの方針として身体状況に問題がない限り日中は下着で生活してもらっている。家族の負担軽減と本人の生活レベル向上にも結びついている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、記録を残している。 水分補給を促したり牛乳やヨーグルト等の乳製品をおやつメニューへ入れ提供している。 又、運動なども勧め、便秘予防に努めている。 特に便秘がちの方へは夜間や寝起きの水分補給を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴や時間や曜日は決まっている。入浴拒否がある時は時間をおいて声を掛けたり翌日実施する等、無理な入浴は行っていない。又、年に2回は町内や隣町の温泉へ出かけている。	基本は週3回を目安としているが、個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。年2回全員で、近隣の温泉施設へ出かけており、利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休んで頂ける様、日中は出来る限り離床して過ごして頂いている。食後は30分程昼寝の時間を設けている。個人の状態に応じて、ベッドの種類を変え、寒がりの人へは湯たんぽを準備するなど、快適な睡眠が取れるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護計画作成時の課題分析表に、服用している薬の名前、効能について書き出しており、職員も確認出来る様に配布している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裏の畑での野菜作りや収穫を一緒に行ったり、餅つきや花見等、季節ごとに行事を行い、気分転換を図り楽しく過ごせるよう心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭でお茶を飲んだり、職員と一緒に食材の買い出しに行ったりと随時外出を行っている。又、お盆やお正月等は家族へ帰省を呼び掛けている。遠方への買い物もドライブがてら一緒に行く事もある。	日常的に畑仕事や散歩、ウッドデッキでの外気浴、食材の買い物同行など行ってホームに閉じこもらない生活を支援している。他にも初詣、地域行事参加や見学、外食、温泉、弁当持参の季節の花見など遠出の外出の機会も頻りに設けて楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>はまゆう館ではお金の管理をしている方はおらず、事務所で管理している。お金の事を気にされる方はいるが、「なくなった」と言われたり、どこに直したか分からなくなり他者とのトラブルになる為、職員で管理し、訴え時はその都度声掛けし、落ち着かれている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話はいつでも出来る状態にある。しかし、電話での連絡を嫌がる家族もいる為、利用者が訴えてもその都度連絡出来ない所もある。字が書ける人へは手紙を書くよう声掛けしたり、写真も一緒に送る様になっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合わせた音楽を流したり、物を飾り季節感を味わえるようにしている。 又、10月以降は各居室と食堂ホールに加湿器を設置し感染症の予防にも努めている。</p>	<p>明るく家庭的で広々としており、生活感や季節感が感じられる共用空間となっている。ユニット間の行き来も自由に出来、リビングから直接ウッドデッキに出入り出来るので開放的である。加湿器や空気清浄機も設置され清潔で、台所もオープンな造りで食事の準備の光景やにおいなどは生活感を与えている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂ホールにソファがあり、皆さん日中はソファに集まり談話されたり、テレビ鑑賞されている。 又、はまゆう館・かんな館は繋がっている為、自由に行き来出来る状態である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は本人の状態に合わせた配置となっており、家族の写真や位牌を飾っている方もいる。</p>	<p>和室の居室は落ち着いた造りで安全性にも優れベッドとダンスが備え付けとなっている。馴染みの物品が持ち込まれ、家族の写真やお気に入りの飾り物などで居心地良く過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所を表示したり、手すりの設置、床材には衝撃の少ないコルクを使用する等、安全を考慮した作りになっている。又、歩行の邪魔になる様な物を置かない等環境整備にも努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない